JTUC-TOKUSHIMA
連合徳島

vol. 330

発行：日本労働組合総連合会徳島県連合会
編集責任者　川口誠二

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35の1
徳島県労働福祉会館内
tel. 088(655)4105
fax. 088(655)4113
E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp
http://tokushima.jtuc-rengo.jp/

当面の日程

- ◎10月5日　参議院議員徳島高知選挙区補欠選挙告知日
- ◎10月22日　連合徳島3地協合同運動会
- ◎10月27日　狭山県内集会
- ◎10月28日　第5回VST養成講座
  第一種安全衛生管理者養成講座
- ◎11月2日　クラシノソコアゲ応援団駅前街宣
- ◎11月21日　連合徳島第35回定期大会

2023年度 徳島県最低賃金審議

目安＋1の 41円 で結審

2023年10月1日から
1時間あたり 896円

2023年徳島地方最低賃金審議会は8月7日、目安＋1円の41円で全会一致を条件に結審した。

審議会冒頭、労働者側から「2023春季生活闘争結果を見ると、全体で3．58％、300人未満の組合で3．23％の10，560円と30年ぶりの高水準であり、徳島県内においても3．7％の高い水準となっている。物価が上がり続けている事をふまえると、今年の最低賃金については、徳島にふさわしい金額となるよう審議を尽くしてい く。」と提起。

それに対し使用者側は、「徳島県最低賃金は2016年以降、（2020年を除き）毎年3％以上 アップしている。使用者側としては、4月と10月の年2回賃上げがあるという 、大変厳しい状況。しかしながらこの物価高騰、エネルギー高騰の中で、従業員の生活を守るということも使用者の使命と承知している。大変厳しい状況が続いているが、今の徳島の実態に合った、慎重な、前向きな審議を望む。」と提起した。

中央最低賃金審議会による目安が示されて第2回専門部会にて、労働者側、使用者側より金額提示し本格議論が始まった。労働者側からは連合全体の賃上げ結果10，560円を177時間で割り、60円を提示。使用側から16円の提示。（その後18円に訂正）ただ、物価上昇を考慮しても28円が限界と、歩み寄らず次回へ持ち越した。

日を改め第3回専門部会では、労働者側からプラス45円の900円をめざしたいが影響が大きいので（目安＋4円）プラス44円と歩み寄った。使用者側は目安算出根拠ほどの物価上昇は徳島に当てはまらないが、中央最低賃金審議会の目安額を尊重し目安額40円を提示した。その後、労使による直接対応により全会一致を条件に41円（目安＋1円）で合意。第4回本審、15時20分～において、引上げ額41円　改正金額896円となる部会報告後、答申を徳島労働局長に提出した。

異議の申出があり、8月23日の第5回本審で審議の結果、プラス41円の896円で確定した。

「クラシノソコアゲ応援団！ RENGOキャンペーン」

9月街宣

Action! 36

連合徳島は、2023年9月12日、JR徳島駅前において、「クラシノソコアゲ応援団！RENGOキャンペーン」街宣行動を実施し、「最低賃金」「労働組合が取り組む社会貢献活動」「職場の健康診断実施強化」等について、各構成組織等から37人が参加してビラ入りティッシュの配布とアピールボードを掲示して周知活動を行った。

冒頭、島和久会長（連合徳島）より、参議院議員徳島県・高知県選挙区補欠選挙についてふれた後、連合徳島推薦の「広田一（ひろた・はじめ）」参議院議員選挙立候補予定者を紹介した。

広田一さんからは、今回の補欠選挙となった経緯、税金を投じて選挙をせざる得なくなった原因、立候補を決断した理由等について訴えた。

続いて、井内猛議長（徳島県中小労働対策本部）、森本会長（公財）徳島県労働者福祉協議会）、仁木啓人県議（新しい県政をつくる会）より、「労働組合の役割と連合がめざす社会の実現」「労福協が取り組む事業内容の説明」「国民が求める政策の実現」等について訴えた。

広田一立候補予定者を紹介する島連合会長

徳島駅前で県民に訴える広田一立候補予定者

徳島県中小労働対策本部 事業所見学

徳島県中小労働対策本部は、2023年7月24日、幹事11人と辰巳主任（UAゼンセン徳島支部）が徳島市応神町の四国トーセロ株式会社を訪問し、工場見学・職場での安全衛生活動の取り組み等の説明を受け組合役員としての見識を深めた。

山田代表取締役からは、会社概要と食品包装フィルムの製造過程の説明を、水野管理部総務人事課部長からは、「四国トーセロ 安全・衛生の取り組みとして、2022年度の重点課題と目標・対策は、①労働災害の撲滅をめざし、労災発生件数0件を掲げ安全パトロールとヒヤリハットによる危険個所（挟まれ・巻き込まれ、墜落、重量物落下等）の点検を掲げ、点検個所450件抽出し、90％ 改善した。②安全意識の高揚と浸透として、安全体感教育、KY教育、フォークリフト安全講習の教育実施回数を年1回で取り組むとともにシートベルト着用チェックについても年2回を監視する目標を掲げ、シートベルト着用率100％を達成した。③労働衛生では、健康診断受診率100％をめざし、健康優良企業「銀の認定」を維持している。④加重労働の防止では、80時間超の長時間残業0人をめざし、長時間残業者0人達成している。」と説明を受けた。

工場見学は3班に分かれて行い、原料から板状に伸ばされた後、薄いフィルムへと加工、裁断に至るまでの過程を社長、工場長、総務部長の案内のもとで回った。工場内は作業工程において機械が高温となっている個所、機械の回転に注意する箇所、重量物の取り扱い等での危険個所もあり、その都度、工場内での安全注意事項について説明を受けた。

今回の事業所見学では、山田代表取締役をはじめ役員の皆様のご厚意とご丁寧な説明を頂くと共に、UAゼンセン四国トーセロ労組の皆様には計画段階からのご協力に対しまして感謝申し上げます。

事業所側から説明を受ける様子

連合徳島 2023 平和行動 in 広島

連合徳島は２０２３年８月５日から６日にかけて、「平和の折り鶴県民運動」の取り組みとして、連合徳島・川口事務局長を団長に各構成組織から参加者を募り、代表団を編成し、平和の折り鶴を広島平和記念公園に献げるとともに「連合２０２３平和ヒロシマ集会」及び「原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」へ13人で参加した。

初日の８月５日は広島平和記念公園内での「ピース・ウォーク」に参加。連合広島青年委員会・女性委員会がピースガイドとなり、原爆ドームなど公園内の慰霊碑等を周りながら由来や歴史について学習した。また、連合徳島の各構成組織などから集約した４万５千羽の折鶴のうち２万羽を「原爆の子の像」等に献納した。

続いて、上野学園ホールで開催された「語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう」をテーマとする「連合２０２３平和ヒロシマ集会」には各構成組織・地方連合会から１７３５人が参加し、代表団は集会会場に３千羽の折鶴を献納した。集会は参加者全員による黙とうで始まり、連合・芳野会長による主催者あいさつの後、中国新聞紙編集委員の水川恭輔さんが「Ｇ７サミットとヒロシマ」と題し講演した。水川さんは今年５月に開催されたＧ７広島サミットの取材から知った実態などについて述べた。

８月６日は広島市主催の「原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参加。約５万人の参列者は「平和の鐘」が響き渡る中、原爆投下時刻の８時15分に黙とうを行い、松井市長は平和宣言で、Ｇ７広島サミットの核軍縮文書である広島ビジョンが肯定した核抑止論について「破綻していることを直視し、為政者に脱却を促すことが重要だ」と指摘し、対話を通じた安全保障体制の構築に踏み出すことを強く求めた。

内閣総理大臣のあいさつの前には、広島市在住の子どもたちによる「平和への誓い」の朗読があり、「誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていく」と力強く宣言した。

式典終了後、代表団は広島平和記念資料館を訪れ、平和学習を行った。

連合徳島は被爆犠牲者の死やその遺族の悲しみを無駄にしないためにも核兵器廃絶と恒久平和に向けて活動を推し進めていく。

ヒロシマからの平和アピール

1945年8月6日午前8時15分、広島に人類史上初めて原子爆弾が投下され、街は一瞬にして焦土と化し、多くの尊い命が奪われた。78年を経た今もなお、被爆の後遺症に苦しんでいる方々がいる。「もう二度と被爆者をつくりたくない」「地球上から核兵器をなくしたい」という強い願いにもかかわらず、今なお、私たち人類は核兵器の脅威にさらされ続けている。

国際社会に目を向ければ、ウクライナへの軍事侵略におけるロシアの核威嚇や、中国の核戦力増強、北朝鮮による度重なるミサイル発射など、今この時も世界の平和が脅かされている。人類がこれまで積み重ねてきた核兵器廃絶の努力を踏みにじり、核兵器が使われる危険性が高まっていることは、極めて遺憾である。私たちは、平和にくらし、はたらく、自由で民主的な社会の意義、それを支えることの重要性を改めて認識し、戦争体験や被爆体験を語り継ぎ、平和を守る努力を続けていかなければならない。

本年5月、ここ広島においてＧ７サミットが開催され、核兵器保有国を含む世界のトップリーダーが広島平和記念資料館を訪れた。核兵器の廃絶に向けた取り組みは、国境や政治的な垣根を越えて行われるべきである。各国のリーダーには、核兵器の恐怖と悲惨さ、実相を胸に刻むとともに、核兵器廃絶に向けたリーダーシップの発揮を強く期待する。そして、唯一の戦争被爆国である日本政府には、「核兵器のない世界」を実現するために、自らの役割と責任を果たすことを強く求める。

連合は、毎年、核兵器保有国の駐日外国公館に対して、核兵器廃絶に向けた要請行動を展開するとともに、全国各地で原爆写真ポスター展や平和学習会を開催するなど、核兵器の恐怖と非人道性を世の中に強く訴え続けている。今後も、原水禁、ＫＡＫＫＩＮをはじめ、平和首長会議や国際労働組合総連合（ＩＴＵＣ）、広島市立大学や広島平和文化センターなどの教育機関やＮＧＯとの連携をより一層強化し、核兵器廃絶・恒久平和の実現をめざしていく。

私たちが、将来世代に平和で安全な世界を引き継ぐ責任を果たすためにも、平和を願うすべての仲間の力を結集し、核兵器廃絶・恒久平和の実現に向けた粘り強い運動を展開していくことを、ここに宣言する。

2023年8月5日
連合2023平和ヒロシマ集会

主催者を代表して挨拶をする芳野連合会長

「原爆の子の像」へ折鶴を献納

参加者全員で記念撮影

第23期 ボランティアサポートチーム養成講座

第3回

２０２３年８月26日、第23期ボランティアサポートチーム（ＶＳＴ）養成講座・第３回講座「Ａ班：災害時を想定した実技研修①」「Ｂ班：普通救命講習」を徳島県立防災センターで開催し、構成組織等から15人が受講した。

災害時を想定した実技研修①では、防災ガイダンスで津波から命を守るための説明を受けた後、体験ツアー（地震体験・消火体験・煙体験・暴風体験）を行い、被災時に身を守るための行動を確認した。防災学習では、防災人材育成センターの工藤活動推進員より、日頃から避難通路を確認しておく習慣や、身を守るための行動、非常携帯グッズの重要性について説明を受けた。

普通救命講習は、第１回同様、心肺停止時の早期認識と通報、一時救命処置ことの大切さを学んだ後、救命処置の手順を、人形を使って訓練した。また、気道異物の除去法と三角巾を使っての応急手当についても学習をした。第１回講座Ａ班と第３回講座Ｂ班で参加した15人に「普通救命講習修了証」が交付された。

受講者からは「日頃から非常時のための準備と、救命処置の定期的な訓練が大切である」「家族で参加ができる防災イベントができないか」「連合徳島３地協合同運動会等で一時救命処置や地震体験カーによる体験コーナーをしてみてはどうか」等の感想が寄せられた。

連合徳島は今後もＶＳＴ養成講座を通じて、非常時のための人材育成活動を推し進めていく。

消火体験をする受講者

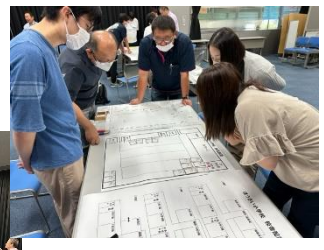
救命講習を受ける受講者

第4回

連合徳島ボランティアサポートチーム（ＶＳＴ）養成講座の第４講座を徳島県立防災センターで開催し、災害時を想定した実技研修②「避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）」に構成組織等から12名が参加して避難所の運営について学んだ。

徳島県防災人材育成センターの中野さんより、地震が起こる仕組みと過去に起きた巨大地震の歴史を知ることで周期的な活動であることを学ぶとともに、南海トラフ巨大地震による県内被害予測（津波・地盤の液状化など）をハザードマップで確認した。熊本地震や阪神淡路大震災での避難所運営事例と避難所開設時の重要点について説明を受けた。

災害時を想定した実技研修②「避難所運営ゲーム」では、２グループに分かれ、グループ内で役割分担（総務・避難者管理・情報・食料物資等の担当者）を決め、静岡県危機管理部が考案したＨＵＧを使い、カードに記載の避難者情報（住所・氏名・年齢・家族構成・健康状態・被災状況・ペットを連れての非難・車での避難）等を読み上げて全員が情報を把握しながら、避難所に見立てた見取り図（学校の敷地・体育館・教室）に読み上げたカードを配置した。カード情報の中には、仮設トイレや水、食料等の避難物資が到着する情報記載に加え、乳幼児や高齢者、病人、外国人といった情報もあり、入所場所の配置には計画性と配慮が必要性であることから避難者情報が重要であることを学んだ。


㊤：HUG 体験

㊦：講義を受ける受講者

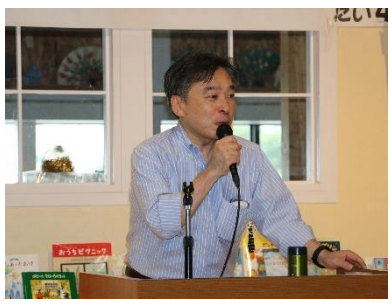
連合徳島 青年女性委員会 合同学習交流会

２０２３年９月９日、万代町にあるＮＰＯ法人「クレエール」にて連合徳島青年・女性委員会合同学習交流会を開催し、各役員等18人が参加して「ジェンダー平等」について学習するとともに青年委員会と女性委員会との交流を深めた。

冒頭、小畑青年委員長から「これからの労働組合活動・運動をより活性させていくためには、『心理的安全性』の高いチーム作りが大切であり、そのためには性別・年代・立場・環境等の壁を越えて、円滑なコミュニケーションを構築することが必要である。ともに活動する仲間として関係性を築いていこう」と挨拶。

連合本部・ジェンダー平等多様性推進局の滝沢弘次長の講演では「連合徳島の組織人員数に対し女性の割合は25・５％、執行委員数は11・５％、大会代議員は12・１％の状況となっている。連合徳島２０２３年度後期主要課題の取り組み方針−重点分野３の男女平等参画、ジェンダー平等の推進、均等待遇、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に向けた取り組みの実践はもとより、社会的・文化的につくられた性差にもとづく偏見や差別を解消し、性別指向・性自認（ＳＯＧＩ）を尊重し、多様性を認め合い、女性が働くうえでの格差や社会的不条理の是正が必要である。身体的な性別がある一方で、社会的・文化的に形成された性別での先入観がジェンダーの不平等や差別を生んでいる。一人ひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任や権利、機会をわかちあい、あらゆる物事を一緒にできることがジェンダー平等であるとされている。ＳＤＧｓの17の目標の中の５にあるジェンダー平等の実現が目標とされている。」と説明し、各国の男女間格差を数値化したジェンダーギャップ指数で、日本は１４６カ国中１２５位とＧ７で最低であること、日本の管理職に占める女性の割合が低い水準えあること等についても紹介された。

「連合徳島における現状報告や課題認識」「男女間のコミュニケーション活性化の施策」等をＢＢＱで交流を深めながら意見交換をし、まとめ・閉会挨拶を藤田女性委員長が述べ合同学習交流会を終えた。


講演する滝沢次長

山側（やまがわ）さやか さんを推薦決定

吉野川市議会議員補欠選挙

プロフィール

1989年1月13日生まれ

奈良県生まれ徳島育ち

4歳の娘を育てるシングルマザーとして鴨島町西麻植に在住

2018年に合同会社 Life を設立

同年に代表者として訪問介護事業所を開業

2021年幼児教室兼学童保育を開業

現在、自身の体験から得た社会のリアルを伝える活動を行っている

社会のリアルを伝え　社会のリアルを変える

わたしにおまかせください!!

私は自身の体験から様々な視点でリアルな現状を見てきました

リアルな現状は現場にいる人しか分かりません！現場からリアルな声を上げましょう!!

山側（やまがわ）さやかがめざすコト

子育て・育児

母子手帳交付時の面談強化

安心安全な保育園・学童の質を確保

保育園入園基準の見直し

介護医療

介護保険制度の見直し

痒い所に手が届く支援の提供

医療用補整具の助成

まちづくり

制限のない子ども食堂

遊べる場所の充実

市民活動推進サポート

障がい福祉

選択できる学びの場

障がい者福祉制度の見直し

障がい者雇用の改善

パートナーシップ構築宣言の普及・促進実効性向上に向けた共同宣言式

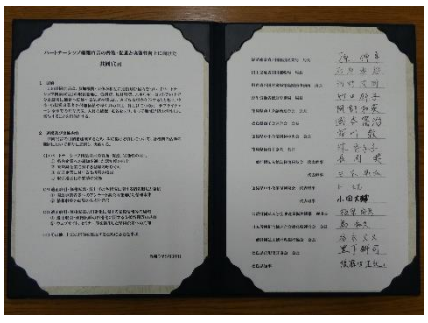
「パートナーシップ構築宣言の普及・促進実効性向上に向けた共同宣言式」が２０２３年８月16日徳島県庁において開催された。

当日は、経済団体（７団体）、連合徳島、金融団体（２団体）、行政機関（５機関）、の計15団体が出席した。

宣言に先立ち後藤田知事より、「現在、下請企業を取り巻く経営環境は、『原材料価格の高騰』や、『円安』等による増加コストの負担方法について、発注企業との「取引条件の見直し」や「受注調整」等、多くの課題を抱えており、大変厳しい状況にある。『パートナーシップ共同宣言』の普及・促進を、適正な価格転嫁の推進や賃上げにつなげ、県内経済の未来に明るい光を灯せるよう、本日ご参集いただきました各機関、団体の皆様の御協力を賜りますことをお願いする。」とあいさつした。

その後、四国経済産業局原局長、後藤田知事の署名、パートナーシップ構築宣言に関する取り組み等について説明の後、懇談が行われ、連合徳島島会長より、「県内における多くの企業が原材料費の高騰などにより厳しい状況にあることは承知している。労働者・生活者も厳しい状況に変わりなく、私たち連合は、地方最低賃金審議会の場でも、パートナーシップ構築宣言が実効あるものとして運用されるべきと申しており、今回の共同宣言が、適正な価格転嫁の推進や賃上げにつながるものと期待している。」と述べた。

最後に集合写真を撮影し、「パートナーシップ構築宣言の普及・促進実効性向上に向けた共同宣言式」を終了した。



署名された共同宣言書

出席者全員による集合写真